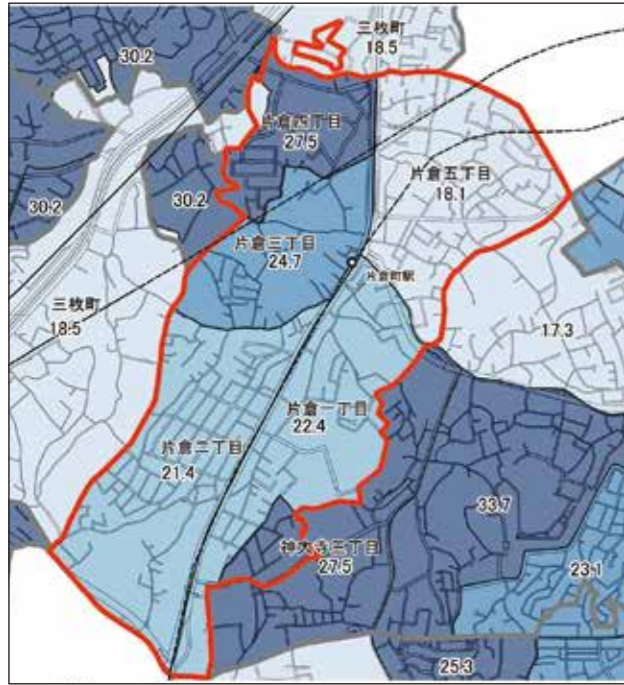
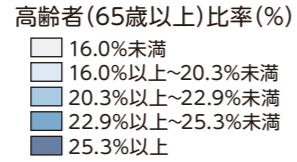


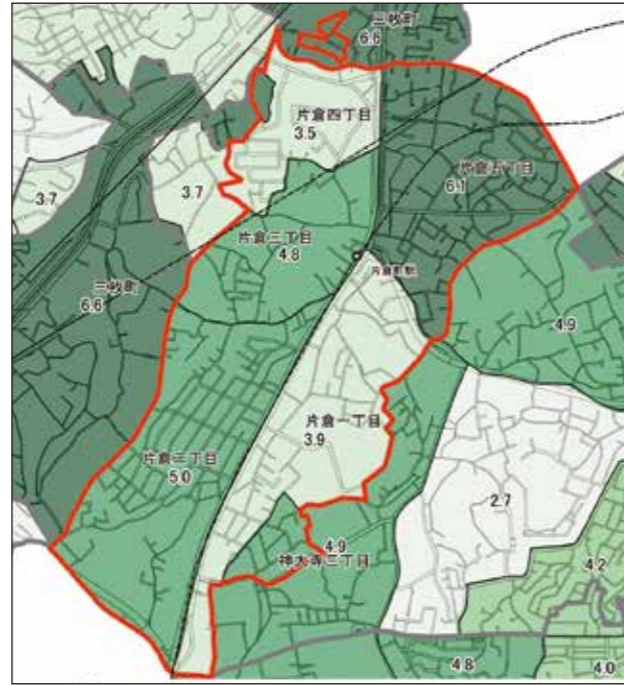
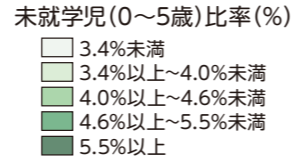
高齢者の分布

※住民基本台帳による、
令和3年3月時点



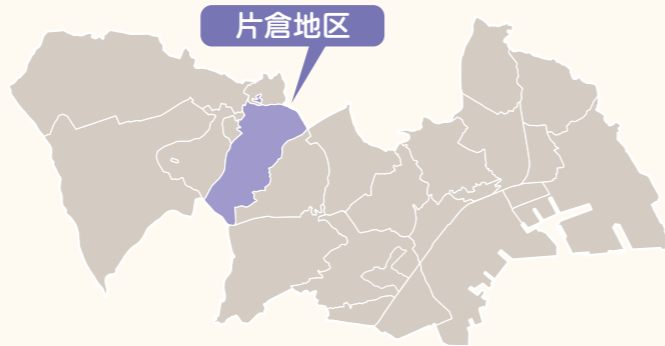
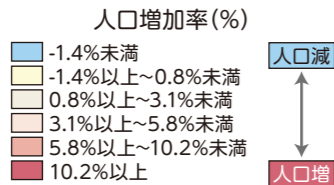
未就学児の分布

※住民基本台帳による、
令和3年3月時点



人口増加率

住民基本台帳による、
平成28年3月及び
令和3年3月時点



※区の高齢人口比率は、**22.0%**です。(令和3年3月時点)
 ※区の未就学児(0~5歳)の比率は、**4.5%**です。
 (令和3年3月時点)
 ※区の人増加率は、**2.9%**です。(令和3年3月時点)
 ※高齢者や未就学児の比率は、色が濃いほど高くなります。
 ※人口増加率は、町丁目別の人口の増減率を示しており、赤は人口の増加率、青は人口の減少率です。色が濃いほど増加または減少の比率が高いことを示しています。
 ※横浜市地形図複製承認番号 令3建都計第 9016号

この計画は、住み慣れたまちで安心して暮らせることを目指し、地区内の様々な人・団体の想いが込められています。

区の計画や他地区の計画は、
区HPをご確認ください▶



見守りから広げよう

安心とやさしさのある地区を目指す片倉

- 地区センター・公会堂・集会所等
- ⊕ 病院
- 地域ケアプラザ
- 福祉施設
- 小学校
- 中学校
- 公立高校

- 樹林地
- 農地・農業施設用地
- 都市公園
- 文教厚生用地



地区概要

起伏のある台地上の住宅地です。地区内を南北に幹線道路新横浜通りが通っており、市営地下鉄ブルーラインの片倉駅があります。
 戸建て住宅が多いですが集合住宅も散在しており、片倉台団地、グリーンヒル片倉などの団地があります。
 地区の南には片倉うさぎ山公園があります。

人口・世帯数等の概況(令和3年3月現在)

	片倉地区	神奈川区
総人口	13,809人	241,561人
0~14歳	1,813人(13.1%)	27,491人(11.4%)
15~64歳	9,023人(65.4%)	160,934人(66.6%)
65歳以上	2,973人(21.5%)	53,136人(22.0%)

	片倉地区	神奈川区
総世帯数	6,690世帯	128,838世帯
平均世帯人員	2.06人	1.87人
65歳以上ひとり暮らし世帯	896世帯(13.4%)	18,089世帯(14.0%)

これまでの取組

見守りのある環境を目指す片倉では、第3期の地区計画で、『お互いの顔が見えて、子どもからシニア世代までのあらゆる人が安心して生活できるまち』をテーマに、3つの目標を定め、様々な取組を行ってきました。3期の取組を踏まえ、さらに第4期計画へとつなげていきたいと思ひます。

目標1 見守り

- あいさつ運動
- 支え合いマップ作成
- スマホ勉強会
- サロン活動(かたくら茶房など)、ふれあい活動
- 認知症サポーター養成
- かたくらんど
- すくすくかめっ子



目標2 防犯・防災

- 防犯パトロール
- 防災備品の調達
- おとなり場の活用
- 防犯カメラの設置

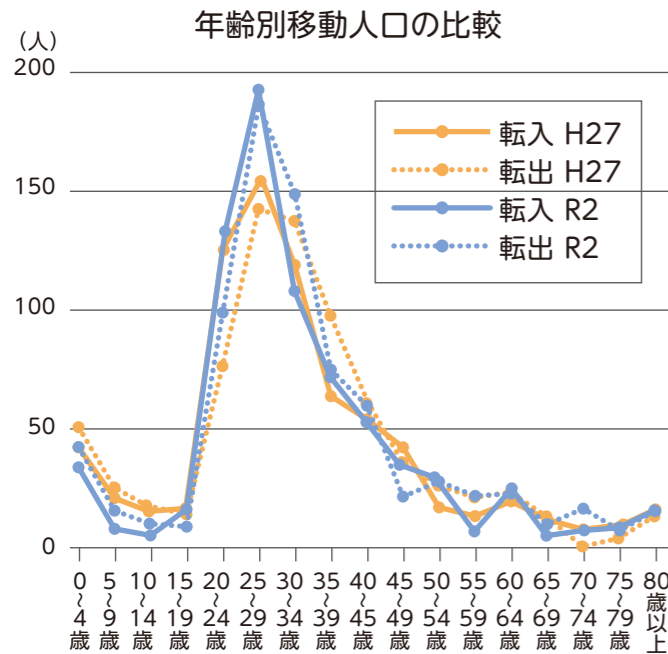


目標3 楽しいイベントを通して新たな担い手を発掘

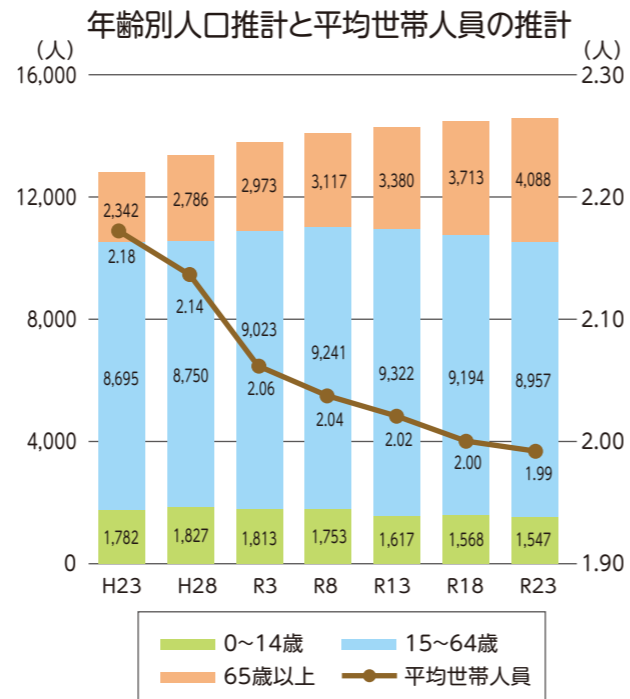
- お花見会
- 防災七夕まつり
- グラウンドゴルフ
- 体育祭
- 亀のつどい
- 歩こう会
- お楽しみ会



地区状況①



※各年の住民基本台帳(3月)



※各年の住民基本台帳(3月)の実績値をもとに推計

見守りから広げよう 安心とやさしさのある地区を目指す片倉

第4期の計画においても『見守りのあるまち』イコール『片倉』と言われるように、誰もが参加しやすい持続可能な目標を設定して、見守りから広がる安心とやさしさのある環境を、これからの5年間で考えていきます。

目標1 見守りから広げる「安心できる」まち

- ① 災害時に対応できる支え合いの仕組みをつくる(情報の把握・発信)
- ② 防犯に対する備えを充実させ日々の安心を定着させる



▲防災・七夕まつり

目標2 見守りから広げる「支え合う」まち

- ① 日頃からの挨拶など、隣近所の顔が見える誰もが元気で住みやすい環境を作る
- ② 集いの場を活用し、赤ちゃんから高齢者まで、支え合う輪を広げる
- ③ 地域に住む誰もが(障がい児・者、ひとり親家庭、生活困窮者、外国人、ひきこもり、認知症の方、その家族の方など)、お互い様の気持ちで、孤立しない地域を作る



▲生活困窮支援パンフレット

目標3 見守りから広げる「つながりあう」まち

- ① 若い世代が地域に参加出来る機会を増やす仕組みを作る
- ② 転入者の方や自治会未加入の方にも、地域への興味を増やすためインターネットの活用など情報の発信に工夫を加える
- ③ 赤ちゃんから若者まで、元気な『かたくらっ子』を育てよう



▲こどもの居場所『かたくらんど』